

平成19年度自尊感情調査結果速報について

1 調査目的

自分に自信を持ち何ごとにも積極的に取り組む青少年は、青少年アンビシャス運動が目指す青少年像である。このため、平成18年11月にスタートした第2期青少年アンビシャス運動では、運動の目標のひとつとして「自尊感情の向上」が掲げられた。

本調査は、県内の子どもたちの自尊感情の実態を把握し、今後の運動の基礎資料とするため実施したものの。

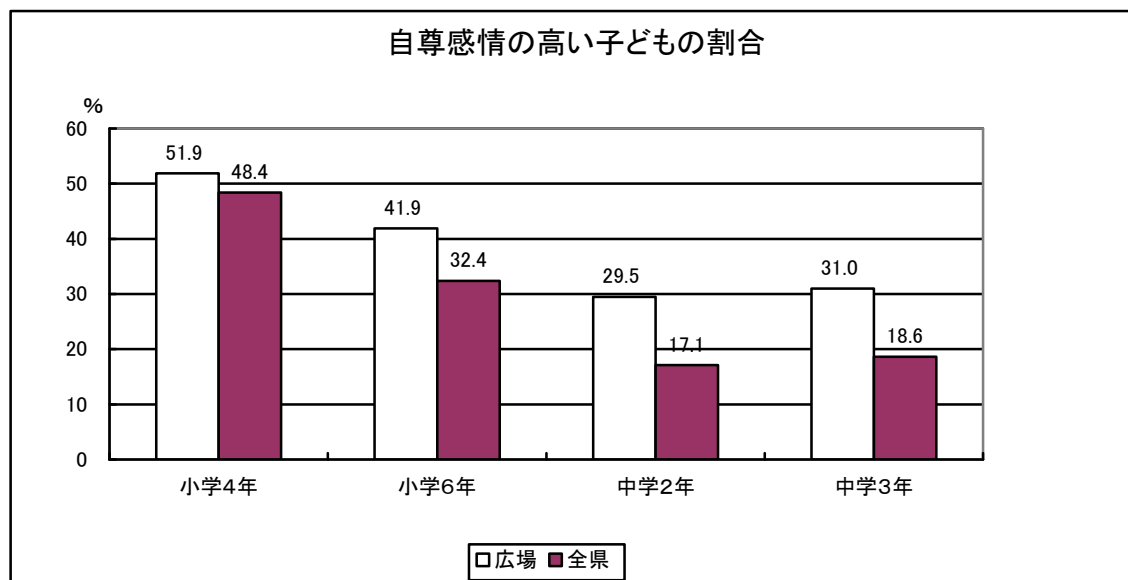
自尊感情とは、「自己に対する評価感情で、自分自身を基本的に価値あるものとする感覚」と定義されている。一般に自尊感情の高い子どもは精神的に安定し、何ごとにも意欲的で前向きに生きようとする傾向にある。例えば、リーダー的な役割をしたり、よくないことをした友達を注意したり、家の手伝いを積極的に行うなどが挙げられる。

2 調査対象

県内の小学4、6年生、中学2、3年生の一部 : 16, 141名 (112校)

アンビシャス広場に参加している同学年の児童生徒 : 1, 539名 (134広場)

3 調査結果の概要



全体として小学生に比べ中学生の方が、自尊感情が低い傾向となっている。これは、一般に学年が上がるにつれ自我が発達することにより、自分に対するマイナス評価が高くなると言われており、今回の調査でも同様の傾向が見られる。

自尊感情の高い子どもの割合の比較

区 分		広 場 (A)	全 県 (B)	対比 (A-B)
小学生	4 年 生	5 1. 9%	4 8. 4%	3. 5
	6 年 生	4 1. 9%	3 2. 4%	9. 5
中学生	2 年 生	2 9. 5%	1 7. 1%	1 2. 4
	3 年 生	3 1. 0%	1 8. 6%	1 2. 4

また、青少年アンビシャス運動の中核であるアンビシャス広場に参加している児童生徒の方が、一般の児童生徒に比べ自尊感情が高い傾向となっており、アンビシャス広場での多様な体験活動や自由遊び、子ども同士や大人たちとの異年齢交流などが自尊感情の向上に良い影響を与えていることが窺える。

4 今後の取り組み

- 今回の結果をさらに分析し、青少年アンビシャス運動が子どもたちの自尊感情の向上に大きな影響を与えることを広く県民に周知し、運動への理解促進と運動の更なる拡大に努める。
- 当該調査は平成23年度までの5年間の継続を予定しており、今後実施される事業による子どもたちの自尊感情の変化について状況把握に努める。